2018 先進地視察研修会・福岡市視察REPORT

2018年度先進地視察研修会は、諸般の事情により前橋商工会議所市街地活性化委員会（吉岡慧治委員長）との合同で12月11日（火）～12日（水）の日程で行い、当研究会からは幹事、専門委員及び事務局６名が参加した。

福岡市では、国の国家戦略特区「グローバル創業・雇用創出特区」の一環として、日本一創業しやすい「スタートアップシティ」を目指し、企業が「新たに価値を生み出すこと」「グローバルマーケットへチャレンジすること」への支援とともに、それらに合わせた天神地区の再開発事業である“天神ビックバン”が展開されている。一昨年には、官民共働型スタートアップ支援施設「Fukuoka Growth Next」が完成しており、それら取り組みをメインに、同市の中心市街地やまちづくりをテーマに視察研修を実施した。

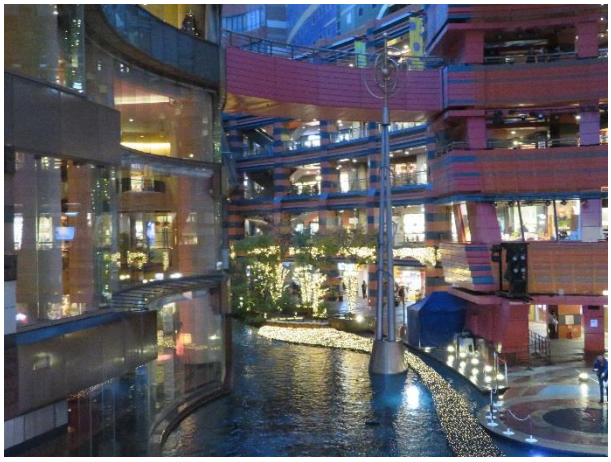
以下は視察概要及び参加者によるレポートや視察先からの提供資料の一部である。

［1日目］ 福岡市スタートアップ支援施設「Fukuoka Growth Next」を訪問。事業及び施設概要の説明を受けたのち、「福岡市の起業・創業の裾野を広げる」をミッションとするスタートアップカフェやオフィススペースなどを視察のうえ、質疑応答・意見交換を行う。その後、アジアの拠点都市としての役割・機能を高め、新たな空間と雇用を創出するプロジェクト“天神ビックバン”が推進されている天神地区を訪れ、水辺空間利活用を重点に「水上公園」など、人を中心に歩いて出かけたくなるまちに生まれ変わりつつある再開発地域の周辺散策とともに「旧福岡県公会堂貴賓館」の施設見学を行った。

≪Fukuoka Growth Next≫ グローバル都市として勢いづく福岡の、将来のユニコーンを生み出す、新たなスタートアップのプラットホームとして誕生した官民共働型スタートアップ施設。天神地区にあった旧大名小学校を改装し、起業する人のためのシェアオフィス、ミーティングルームをはじめ、相談や打ち合わせに使えるスタートアップカフェがあり、独自のスタートアップ支援システムも有する。

≪天神ビックバン≫ 天神地区では、アジアの拠点都市としての役割・機能を高め、新たな空間と雇用を創出するプロジェクト“天神ビックバン”を推進している。これにより付加価値の高いビルへの立替えなどがスピード感をもって進み、ビジネスやショッピング・憩いをはじめ、人・モノ・コトが交流する新たな空間が生まれる。

［2日目］ 福岡商工会議所を訪問。担当者より「食」を通じた地域振興策「フード EXPO2017」の取り組みなどの説明を受ける。また福岡地域戦略推進協議会（FDC）の担当者より福岡都市圏の成長戦略や様々なプロジェクトなど取り組みの概要について説明を受け、質疑応答・意見交換を行う。その後、展示棟やみやげ処で構成され町家を移築復元した「博多町家」ふるさと館に立ち寄るとともに、博多祇園山笠が奉納・展示される博多の総鎮守「櫛田神社」を参拝し、JR福岡駅前で昼食休憩ののち、地下鉄で福岡空港へ移動、帰路に就いた。



福岡市視察報告

代表幹事　吉岡慧治

1　福岡市視察の決定について

数年前、当研究会において、北九州市を視察した。北九州市は、製鉄を中心とした工業都市であり、今は、水・大気の浄化を中心とした環境技術や、新エネルギー開発と利用法をこれからの産業として育成しようとしている。この 100 万都市のすぐ隣り（70 キロ位）にある福岡市はどんな都市なのだろうかと興味を持っていた。最近では新聞等で、福岡市が政令指定都市で人口増加率がトップであると報じていた。地方の疲弊・衰退著しい現在、どのような都市経営をしているのだろうかと興味を持った。そこで概要を調べてみた。

2　発展のきっかけは

明治・大正から始まり、九州大学の誘致、街路事業、電気会社の経営から路面電車の経営、銀行経営から商業経営など、民間人の頑張りも大きく貢献して来たことにより、他都市とは違った特徴ある発展をしてきたようだ。ただ、工業の振興も図りたかったが、大河川がなく、水の供給が不足していたため、あきらめざるを得なかった。そこで、自分の都市の発展に必要なことだけをやろう、という精神を持ち貫いてきたようだ。

3　現在の福岡市は

人口 158 万人（平成 30 年 11 月）で、政令市で 5 番目の人口規模の都市となった。人口減少社会のこの日本で、政令市トップの人口増加率を誇るこの都市を、どのような政策で強化していくのか、そのあたりをお聞きし、現状を視察してみることにした。

4 視察から得た成長戦略

視察は平成 30 年 12 月 11～12 日で、福岡市に着いたら雨であった。天神地区にある宿に荷物を置き、昼食を取った。この地区は、福岡市の中心部にあり、天神ビッグバンとして再開発の進行途中であり、2024 年までに 30 棟のビルが完成するところらしい。航空法による高さ制限緩和、容積率の緩和などを受けて進めている。そこから、福岡市で一番古い小学校（旧大名小学校）の廃校を利用した、官民共働型スタートアップ支援施設へ向かった。当時とすればしゃれた小学校であった面影の残る施設である。起業に夢膨らませ将来を夢見て研究したり制作していたり、仲間と一緒に会合を開いたり、情報交換しているところを見学できた。想像したり、思いを巡らせたり、休息するための緑多い「スタートアップカフェ」も営業していた。弁護士や税理士も無料で相談に乗ってくれるらしい。正に創業を考えている人にとっては、有意義なところと思えた。

二日目は、福岡商工会議所での説明を聞いた。主に食に関することが多かったので、我々の意図した、福岡の発展過程での創意工夫やコンセプトを伺いたかったが、聞けなかった。しかし、よく考えてみると、これからの福岡の発展は、都市の拡大ではなく、高密度化をさらに進めることと、今福岡市が力を入れている食文化とその充実、芸術文化の更なる発展強化、それらのお客様になってくれる外国人を含めた旅行者の増加策等が、一番の重点事項ではないかと思えてきた。政治や行政での発展は限界がある。民間が発展してこそこれからの都市の発展がある。との照準を見定めたうえでの政策方針だと確信した。

博多旧市街を国際的な観光地にする、現在進行中の「博多旧市街プロジェクト」による再開発と振興を合わせて、これからの福岡市の発展が見えてきた視察であった。

福岡市視察

専門委員　小島秀薫

12 月 11 日から 12 日にかけて福岡市を視察してきた。今回の視察は、前橋商工会議所の市街地活性化専門委員会合同の視察である。

福岡空港に着くと雨だった。今回、傘を持ってくるということが全く頭になかった。雨を避けながら、タクシーでホテルへ。宿泊はキャナルシティにあるワシントンホテルで、荷物だけ預かって頂き、理想の都市と会議所委員会のメンバーとで昼食になった。

食後、再びタクシーで今回の視察先1番目、福岡Growth　Nextへ向かった。大名小学校という最古の小学校を活用した官民共働型のスタートアップ支援施設だそうである。

この小学校は、当初の予定では隣接する敷地と合わせて再開発の予定だったらしい。しかし、現段階で小学校はスタートアップ支援施設になり、隣接する敷地にはリッツカールトンとして営業するホテルの建設が始まっていた。支援施設の内容に入る前に、最終的な土地利用が気になった。大名小学校は建物も敷地も細長く、これだけでは再開発も難しいのでは、と思われるのだが、隣接地に容積移転も認めてもらえなかったということらしい。全体の将来的土地利用が気になった。

一方この支援施設はなかなか魅力的である。「スタートアップ支援」という言葉になじみが薄かったが、福岡市としては、シアトルにおけるスターバックスやアマゾンといった急成長する企業が福岡から出てくれれば、税収面でも就業人口の確保という面でも大きなメリットがあるだろう。また、この支援施設を共同運営する民間企業にとっては、出資先としても、また大規模に床を利用してくれる企業としても、急成長する企業を次々と生み出したいところだろう。

起業を手助けし、成長を支援する様々な仕掛けが整えられている。貸事務所は勿論、起業に必要なアドヴァイスをしてくれる弁護士、税理士といった無料相談もある。また、情報交換の場と

してカフェといったものまで整っていた。

視察を終え、外に出てみると、まだ雨が降っている。傘を持って来なかったので、旧公会堂貴賓館視察はパスしてタクシーを拾い、ホテルに戻った。

翌日は9時半にホテルロビーに集合して、福岡商工会議所に向かった。福岡市の商工業全般の振興策について説明を受けようとしたのだが、主に説明して頂いたのは食を通じての振興策で、昨年開催したフードEXPO2017の内容が中心だった。理想の都市としては、政令市移行にあたっての会議所の役割などを聞いてみたかったのだが、説明が終わると直ぐに退席されてしまい、目的は果たせなかった。

続いて、FDC（福岡地域戦略推進協議会）の話を聞いた。産学官民一体となった組織ということで、メンバーを見ると、地元有力企業は勿論、九州の支社を持つ蒼々たる企業が名を連ねている。福岡都市圏のシンクタンクかつ実践部隊という説明だったが、どうも、どんな成果が出ているのかよく分からない。はしなくも、参加者の1人から、来年で総括という説明だったが、どんな成果が上がったのか2、3説明して、と聞いたら来年九大の跡地をどう利用するか提案したいという。来年の話だとすると、過去8年間は何も成果がなかったということなのだろうか。乗り遅れまいと参加する企業で組織が大きくなりすぎて、身動き取れなくなっている、と言ったら酷だろうか。

理想の都市としては先に政令市になった北九州市を後から政令市になった福岡がどうやって追い越したのか、その原動力はなんだったのか、といったことを聞きたかったのだが、当初予定していた市役所との意見交換が、相手方のスケジュールの都合だろうか、無くなっていて今回ヒヤリングした対象者からは聴くことが出来なかった。その点が残念であった。

昼食を博多駅近くのホテルで摂ってから福岡空港から帰ってきたが、合同視察というのは、それぞれ目的が違っていて、おそらくお互いが聞きたいことが聞けなかった、という欲求不満があったように思う。反省点だった。

福岡市の取り組みと現状

専門委員　中森隆利

野村総研の「成長可能性都市ランキング」で一昨年が1位、昨年は東京 23 区に次いで2位（実績とポテンシャルの差である伸びしろでは1位）である福岡市を視察した。1泊2日の日程では 36 歳で当選して現在3期目の高島市長のもとに大きく変貌している取り組みについてほんの一角を覗き見た程度だったが市街地がコンパクトで、思った以上に大都市の印象が強く、東京よりもアジアに向けた世界戦略が明確であった。

1 「Fukuoka Growth Next」視察

今、各地で注目されている取り組みの一つである将来のユニコーンを生み出す新たなスタートアップや中小企業の第二創業支援のためのプラットフォームとして一昨年スタートした官民の共働型の施設で市の中心地区にあった旧大名小学校校舎に現在 100 社以上のスタートアップ企業が入居している。その取り組みは明確で新たな起業や創業の裾野を広げるために「スタートアップカフェ」を置き、専門家による無料相談やイベント企画・運営、人材のマッチングなどを行っていて 150 社以上が創業し、一定の成果を出している。

2 福岡商工会議所での福岡地域戦略推進協議会（FDC）の説明

この FDC は会長が麻生セメント会長の麻生さん、副会長に九州大学総長の久保さんと高島福岡市長という産学官民一体の組織で大きな役割を持っていて、福岡都市圏全体の成長戦略の策定から実際に推進まで行っている。何よりも会員自らが戦略を実行する当事者となり自ら出資し、具体的な目標やビジョン達成のためのプロジェクトの担い手となり、域外の知恵や資本を積極的に誘致し、投入する役割を持つ。説明を受けた内容や取り組みについての数値データは見事で、文化イベントなどの効果分析も完全

に出来ているという説明を受けた。只、その担当者が他の説明会への出席のために会場を抜けたため具体的な話を聞けなかったのが残念だった。

3　水上公園や旧福岡県公会堂　、アクロス福岡、櫛田神社、「博多町家」ふるさと館など見学

福岡市の強みは、常に言われるコンパクトシティとして都市の密度にある。今回の見学地も徒歩で回れ、整備された公園や歴史的な地区、商業地、文化ゾーンなどがうまくまとまっている。商業施設にはハングルや中国語があふれ、両替や免税コーナーも分かりやすく古くから大陸との交易の中心であり、市内に空港や博多港を持ち、中国、韓国、東南アジアからの外国人旅行客日本一の国際都市が良く表れている。

4　最後に

私の仕事柄興味を持ったのは旧県庁跡地の公園内に建設された国際・文化交流の拠点「アクロス福岡」の中にある九州交響楽団（九響）の本拠地「福岡シンフォニーホール」で 1867 席のシューボックスタイプの大ホール。今年度から群馬交響楽団のミュージックアドバイザー就任の小林研一郎氏が九響の名誉客演指揮者として3月 15 日に指揮する案内も出ていた。市内にはふくおかフィナンシャルグループ文化芸術財団所有の FFG ホール（692 席）や福岡サンパレスホール（2300 席）などもあり、5年後には市民会館も新築される予定で音楽文化都市としての施設や内容が充実していた。

官民共働型福岡市スタートアップ支援施設

FUKUOKA growth next （視察先提供資料）

Fukuoka Growth Next

天神ビックバン（天神地区視察）

水上公園

旧福岡県公会堂

櫛田神社

「博多町家」ふるさと館